

本郷三丁目から湯島にかけて – その後

藤原 道夫

湯島天神の梅を見に行こう、ついでに本郷三丁目から湯島にかけて散策しようと思い立ち、大江戸線に乗って「本郷三丁目」で降りた。エスカレーターで地上に出たところが「かねやす」の横手。表に回って驚いた、シャッターが下りているではないか。小さな貼り紙に「店舗募集」とあった。「かねやす、おまえもつぶれたか」と言っただけのもの、この小間物屋に用事はなかった。ビルの左手の狭い壁に「本郷もかねやすまでは江戸のうち」と彫られた金属板がはめ込まれており、その前にこの店を説明する看板が立ててある。「享保の大火後建てられたかねやすの大きな土蔵が目立っていた・・・」しばし見入る。

向いの「三原堂」に寄り、「ほっぺた落ちる」と表書きのある小さな饅頭が入っている箱を二つ買おうと思ったのだが「今は桜餅作りに忙しくて作っていません」という。

隣の「藤むら」は閉まったままで、看板もなくなった。壁に黒カビが広がっている様子。

ぶらぶら湯島に向かうと古くからある煎餅屋の前に。ガラスケースの中の煎餅は今や透明な袋に小分けして入っているが、何時造られたものなのだろう。その近くの最中を売る店の佇まいがすっかり古びてしまった。美味しい羊羹もある筈だが寄る気にならない。江知勝があった場所にビルが建っている。大鳥居に近づくとそこはかたなく梅の香りがしてきた。

天神境内の狭い庭には白梅が密に植えられている。3月に入って盛りは過ぎているものの、ふくよかな香りが漂う。好天で昼前から人出は多いが、騒々しくなくて有難い。ゆっくり二回りして女坂の方へ。階段脇に植えられているピンクがかった梅が満開少し前、香りが最もよくたつ時だ。下りきったところに「切通坂」のことを書いた看板があった。「湯島の白梅」に歌われてこの坂が有名になったとか。

天神下にある「シンスケ」は健在のよう。「丸赤」が開いていたので中に入り、前から鼻屑にしていたエビしんじょのことをと尋ねると、もうやってないとそっけない返事。

3年ぶりの散策に手ぶらで帰るはめになった。もうこの辺りに来ることもあるまいと思いつつ、何か腑に落ちない気分を持ち越している。JRで移動し、行きつけの天ぷら屋に寄った。穴子とめごちを堪能し、ようやく落ち着いた気分になった。しばし過ぎ去った時を思う。